

2015年度報告 社会

事業活動を通して培った「人」と「技術」を活用して、世界の各地域で一人でも多くの社員が参加し、地域の課題解決に貢献することを活動の基本方針としています。



各拠点清掃活動(四国支社)

重点テーマと2015年度の主な取り組み

- 次世代育成支援
 - ・小中高校生向け理科教室
 - ・教員向け企業研修、理科実技研修
- 自然環境保護
 - ・森林保全活動、海洋保全活動
 - ・清掃活動
- 東日本大震災被災地復興支援
 - ・福島県支援(物産購入・子どもの遊び場)

事例紹介 自然環境保護活動「サンゴの植え付け」

海洋資源を守る

タイでは地球温暖化の影響で海水温度が上昇し、「サンゴの白化」によってサンゴ礁が減少しています。富士電機マニュファクチャリング(タイランド)社では、水生動植物の生息環境保護とサンゴ保護の大切さを啓発することを目的に、サンゴの植え付けイベントをチョンブリー県サッタヒープのトエイガムビーチで実施し、社員60名が参加しました。

この活動は、サンゴの植え付けに関する専門家を擁するタイ王国海軍に協力いただき行いました。サンゴの植え付け前には、水生動植物に関する講習と植え付け方のアドバイスを受けました。

参加者は、初めての体験に興味を持って活動し、海洋資源の保護の大切さを学びました。

今後もサンゴを守る活動を継続していく予定です。



サンゴの植え付けの様子



海軍ダイバーによるサンゴの設置

事例紹介 東日本大震災被災地復興「子どもの遊び場」支援

福島の子どもたちを元気に

東北復興支援の一環として、福島県郡山市が運営する屋内遊び場施設「PEP Kids Koriyama」の運営を委託されているNPO法人郡山ペップ子育てネットワークへの支援を実施しました。

当NPOは、原発事故の影響によって運動不足となり、現在も体力の低下や肥満の問題を抱えた子どもたちに、年間を通じて体を使って遊ぶことができる場を震災直後から継続して提供しています。今回の支援は、開設後4年が経過し、子どもたちの遊びの質を高めるための設備のリニューアルに利用されました。NPOからは改修によって「遊びの範囲が広がり、

子どもたち同士のつながりが深まった」「来場者から大変好評です」とのお言葉をいただきました。

今後も被災地の子どもたちを元気にする新たな活動に取り組んでいきます。



PEP Kids Koriyama館内の様子



リニューアルした遊具の一部

地域社会から求められる

次世代育成支援に貢献する企業であり続けたい

北海道富士電機(株)は1968年に富士電機の産業用電機品の直系販売会社として発足し、北海道内で地域密着の営業活動を展開しています。地域社会への貢献を目指し、次世代育成支援の一環として、近隣小学校へ電気やエネルギーに関する出前授業に取り組んでいます。



製作をサポートする社員

■ 理科教室開催のきっかけ

「理科教室を実施する以前は、海外の学校に日本語教材を寄贈するなどの活動を行っていましたが、もっと当社の業態や規模に沿った地域貢献ができないか模索していました」と当時のことを語ってくれたのは管理本部課長の萬田。

富士電機が実施している理科教室「手作りモーター製作」の取り組みを知り、電気品を扱う当社にとって、大いに意義のある活動と捉え、理科教室の開催に至っている。



手作りクリップモーター

当時会社近隣の札幌市立中央小学校に通うお子さんを持つ社員がいたため、その社員を通じて理科教室の出前授業を学校に提案した。校長先生が理科教育に熱心であったこと、当社の熱意が評価され、小学5年生の授業として2011年に採用された。「その社員とは実は私なんですが・・・」と横から照れ臭そうに話すのは中西取締役。初年度は営業部門の若手、中堅社員を中心に10名が参加していたが、回を重ねるごとに「また参加したい」と申し



理科教室参加メンバー

出る若手社員も増え、今では全員が「大切な地域貢献活動」として認識し、学校からも毎年開催の依頼がある。

■ 札幌市立中央小学校での理科教室

2015年12月22日、札幌市立中央小学校で社員10名が参加し、5年生85名を対象に理科教室「手作りモーター製作」を開催した。参加者全員が完成できるように各テーブルに社員を配置し、子どもたちにアドバイスする。最初は

回らないと悪戦苦闘している子どもも、試行錯誤の末、クリップモーターが回ると「やったー」「回ったー」と各テーブルから歓声が上がり、子どもたちの楽しそうな笑顔に接し、緊張していた社員の顔にも笑顔が戻る。



出前授業の様子



「子どもたちの熱心さ、モーターが回った時の笑顔、アンケートに書かれた感謝の言葉などに触れるにつれ、通常業務とは異なる充実感、達成感を得ることができました」(道央営業部 高橋)。また、札幌市立中央小学校の校長先生からも「札幌市の教育として重視する『わかる・できる・楽しい授業』に直接的につながり、現代理科の最大の課題である体験の不足を補う素晴らしい機会」とのお言葉をいただいた。

■ 今後について

2015年度は会社から少し距離のある札幌市立平岸小学校でも開催した。「近隣地域における認知度が高まったことだけでなく、小学校の教育現場に携われたことで、社内にも『社会貢献できる会社なんだ』という自信が芽生えたことは大きな変化だと思います」(萬田)



平岸小学校児童からのメッセージカード(本社入口に掲示)

北海道富士電機(株)では、今後も地域社会から求められる、次世代育成に貢献する企業であり続けるため、理科教室を継続していく計画だ。